

北のとびら

vol. 101

平成26年7月



特集

北海道のアートイベント2014

地域の息吹、記憶、関係性、

咲き誇る北海道のアート

この人に注目

藤田 貴大

アートの子カラを考える

北海道インプログレス

三笠プロジェクト

街歩きアート

北前船が運んだ文化の香り満ちる、

いにしへの港町

[江差]

フォト・エッセイ

文月 悠光

表紙作家の紹介

武田 浩志

美術館の外へ！
3つの催しにみる
地域とアート

別名「極東コンテンポラリー」と名付けられた「Far East コンテンポラリーアート2014」は、2012年・2013年と置戸町で開催された「置戸コンテンポラリーアート」から発展。野外でのインスタレーション作品の展示を中心としたアートイベントです。2014年はオホーツク全体への広がりを見据えて、北見市留辺薬町の温根湯温泉周辺と旧大和小学校が会場となり、全道から集まった作家68名が創作・展示をします。

温根湯温泉の会場には、「道の駅おんねゆ温泉」に移転開設して

から一年間で30万人を集客した「山の水族館」があることから、観光とリンクした形で、より多くの人が現代アートを体感できる機会となることを期待されています。また「温根湯温泉の活性化にも繋げたい」との考えから、温泉施設関係者から参加作家の宿泊提供などのサポート体制がとられているそう。温泉街にある空き店舗を活用した展示も行われ、地域と一体となった取り組みが展開されます。

白老町で開催される「飛生芸術祭2014」は、「アートを通して交流する芸術祭」。地域の方ももちろん、領域を問わずアートに関心のある方がだれでも自由に参加できるアートイベントです。主催は、1986年に廃校となっ



伊藤華織「Off spring ~ループする魂~」

北海道各地で盛んに開催されているアートイベント。近年は特に、美術館というフレームの外でのインスタレーションや立体造形の展示を中心とした野外での催しが、各地で個性を咲かせています。豊かな自然、人々の生活や関係性、土地の歴史、そこから受けたインスピレーションから広がった作品世界が鑑賞できる、2014年に北海道で開催されるアートイベントをご紹介します。

●特集 北海道のアートイベント2014

地域の息吹、記憶、関係性、

咲き誇る北海道のアート

※掲載写真は昨年度開催時の作品や、今年度参加予定の作家による参考作品です



上 / chiharu mk「ライブエレクトロニクス」
下 / 鈴木隆「SUZUKI - FARM」

● Far East コンテンポラリーアート2014
日程：2014年8月10日(日)～9月14日(日)
会場：温根湯温泉ゆめ広場ハルニレメモリアルおよび道の駅広場(北見市留辺薬町松山1-49)、旧大和小学校(北見市留辺薬町温根湯温泉440-1)

参加アーティスト：林弘亮、田丸忠、鈴木順三郎、阿部典英、阿諏訪政行、伊藤華織、荒井善則、鈴木隆 など68名
問い合わせ：wagatsuma@rogical.jp
(事務局 我妻)





アンゼラム・キープアー
「メランコリア」
1989
福岡市美術館での
展示風景
福岡市美術館蔵
Photo: 山崎信一

●札幌国際芸術祭2014 (略称: SIAF 2014)

日程: 2014年7月19日(土)～9月28日(日)
会場: 北海道立近代美術館、札幌芸術の森美術館、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)、北海道庁赤れんが庁舎、モエレ沼公園、札幌市資料館、札幌大通地下ギャラリー500m美術館ほか
参加アーティスト: 中谷芙二子、スーザン・フィリップス、カールステン・ニコライ、鳥袋道浩 など60組以上
問い合わせ: 011-222-4894 (札幌市コールセンター)
<http://www.sapporo-internationalartfestival.jp/>



岡部昌生
床面: (北海道炭礦汽船真谷地炭礦電力所遺構)1998
壁面: (雄別炭礦病院屋上遺構)2009
「岡部昌生プロッタージュ・プロジェクト雄別炭礦を掘る」展での展示風景 (釧路市立美術館 2009)
Photo: 港千尋



山下真人
「Planoforte
陶のインスタレーション」
2005 (兵庫)

●Sapporo Conception

札幌現代アート交流展2014

日程: 2014年7月9日(水)～9月28日(日)
会場: ギャラリーレタラ、ギャラリー隣の空地スペース (札幌市中央区北1条西28丁目2-35 MOMA Place 3F)
参加アーティスト: 阿部典英、秋山祐徳太子、吉野辰海、國松明日香、柿崎熙、吉田茂、渡辺行夫 など26名
問い合わせ: 011-621-5600
(ギャラリーレタラ
Sapporo Conception of Art
実行委員会)
<http://moma-place.jp/retara>



國松明日香
「名も無き星に架ける梯子」
2010 (札幌)

札幌初の国際的なアートフェスティバルとなる「札幌国際芸術祭2014」は、「都市と自然」がテーマ。世界的に活躍するアーティスト・坂本龍一氏がゲストディレクターを務め、世界で活躍する現代美術のアーティストたちが多数参加し、都市と自然のこれからの共生のあり方に迫る作品世界を提示

札幌から世界へ発信
「都市と自然」と
「北海道の個性」

札幌市内の各所でさまざまなプロジェクトが実施されますが、主会場の一つとなるのが北海道立近代美術館と、札幌芸術の森美術館。国内外のアーティストの作品によって、北海道と日本の近代化の歩みと自然環境を振り返りながら、自然、都市のあり方、エネルギー、暮らしを見つめ直す「沈黙のための空間」が誕生します。一方、札幌国際芸術祭の会期にあわせて独自に開催される

します。

以降、27年間にわたり飛生小学校の校舎を制作・発表の場として活用してきた「飛生アートコミュニティ」。若手アーティストを中心に地域・年齢・経歴もさまざまなメンバーが集うコミュニティです。アートを媒介とした地域づくり・地域交流に積極的に取り組んでおり、飛生芸術祭はその成果発表の機会ともなっています。

かつて日本経済をエネルギー面から支えた石炭産業で賑わった空知地区では、「そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2014」が行われます。アートの力で空知地区の炭鉱の記憶を掘り起こし、炭鉱跡地の施設を存続させ、地域

再生を図ることを目的として行われるプロジェクトです。札幌市立大学とNPO法人炭鉱の記憶推進事業団が中心となり、道内外のアーティストと学生による協働で開催されています。

●特集 北海道のアートイベント2014



●飛生芸術祭2014

日程: 2014年9月7日(日)～9月14日(日)
会場: 飛生アートコミュニティ (白老町字竹浦520 旧飛生小学校)

参加アーティスト・ミュージシャン: 石川大峰、奥山三彩、国松希根太、小助川裕康、永田まさゆき、伴翼、吉岡滋人 など約70組
問い合わせ: contact@tobiu.com
<http://fes.tobiu.com/>



歌う!ほしの子どもたち
Photo: Hideki Akita



どんよこ
「記憶の輪郭」

●そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2014

日程: 2014年8月23日(土)～10月13日(月・祝)の土・日・祝のみ開催

会場: 夕張清水沢(旧北炭清水沢火力発電所 夕張市清水沢清栄町)、奔別(旧住友奔別炭鉱選炭施設内石炭積み出しホッパー 三笠市奔別町)、北炭送電線鉄塔の道(北炭送電線沿線 夕張市～岩見沢～三笠市)
参加アーティスト/岡部昌生、端聡、Kevin Gaffney、伊藤隆介、坂巻正美 など作家11名、札幌市立大学・大学院・卒業生約20名
問い合わせ: 011-592-2300 (札幌市立大学 担当: 上遠野敏)
<http://sora-coal-art.info>



ワコボコマイ
「Factory」

「Sapporo Conception」では、北海道という地域での表現を牽引してきた道内のアーティストによる立体造形・インスタレーション作品が展示されます。

ギャラリーが企画したコレスボンダンス(交感)展を復活させた、道内と道外作家の交流展「コレスボンダンス2014」、④金属を共通素材とする道内外の作家による初の交流展「金属の対話」が展開されます。また、ギャラリーに隣接する150坪の更地に7月20日から設置される「レタラ野外前線」では、日常の場である住宅・公園に隣接する中に、10名のアーティストの作品が展示されます。

これまで、「赤平炭鉱アートプロジェクト」(2004年)、幌内布引アートプロジェクト(2009年)、夕張清水沢アートプロジェクト(2011年)、奔別アートプロジェクト(2012年、2013年)と、4地点でインスタレーション展示

を行ってきました。2014年は、空知エリアという「面」への展開の第一歩として、「点」から「線」へとプロジェクトを拡大。夕張市旧北炭清水沢火力発電所とズリ山、三笠市旧奔別炭鉱ホッパーとその周辺、夕張市から三笠市を繋ぐ旧北炭送電線鉄塔の道の各所で、アート作品の展示が行われます。また、札幌国際芸術祭とも連携しており、8月24日(日)には旧住友奔別炭鉱跡地において、アンゼラム・キープアー記録映画の上映なども行われます。

藤田 貴大

Takahiro Fujita



2014年6月29日(日) だて歴史の杜カルチャーセンターにて

を作品の締めくくりにしたバージョンで、伊達という街に帰ってきたかった。その思いで創ったのが『AAA かえりの合図、まった食卓、そこ、きっと-----』です。

『かえりの合図、』を書いたのは2011年。東日本大震災があって、多くの人が帰ることに戸惑った年でした。あれから3年経って、当時は切実さがあつた「帰る」ということの感触が、薄らいでしまった人もいるでしょう。「マームとジブシー」でこだわっているのは、記憶。人は忘れていく、時間は過ぎ去っていくものだけど、作品を観る2時間は、思い出す時間、忘れないようにする時間になればと思っています。

この秋には海外ツアーを予定していますが、国内外によらず東京以外での公演は、楽しみです。そもそも「マームとジブシー」で最初にイメージしていたのも旅公演です。東京にはコアな演劇ファンがいるので、そこでの公演は目の肥えた人たちに観せる演劇になっていく。でも、自分が地方出身者だからわかるけれど、地方の人にとって、演劇を観ることは特別なことです。公演ができるということを当たり前にも思いたくないし、コアな演劇ファンではない人に観てもらいたい、という思いもある。

街から出る・見送る、街に帰ってくる、そういう記憶を持つ人は海外にもいて、海外公演でも顔を見てくれる観客がいました。僕のパーソナルな感触かもしれないものを、どれだけの人が共感してくれるのか、いろんな街に行きたくて確かめたい。

僕はまだ、自分の表現に満足できていません。海外の観客にせよ、他のアーティストとのコラボレーションにせよ、出会って創っていくことは、傷つくことでもある。自分はなんてちっぽけなんだ、と思ひ知る。でも、それをネガティブには捉えていません。そこで得たものは、必ず次の作品に繋がると信じています。



マームとジブシー「AAA かえりの合図、まった食卓、そこ、きっと-----」
東京芸術劇場シアターイースト
Photo: 橋本倫史



アートの子カラを考える①

北海道インプロGRESS・三笠プロジェクト

r

「北海道インプロGRESS・三笠プロジェクト」は、パリを拠点に世界各国で活動している北海道三笠市出身の美術家・川俣正さんが中心となって取り組むアートプロジェクトです。スタートのきっかけは2008年、東京で行われた川俣さんの個展に故郷の人々が訪れ、「三笠でもぜひ活動を」と望んだことでした。北海道ではあまり活動がなかった川俣さんですが、これを受けて、北海道文化財団と北海道教育大学のサポートのもと、2008年・2009年に三笠市でレクチャーやワークショップを実施。その後、2011年に北海道立近代美術館でのワークショップをきっかけに、道内各地でその地域と向き合い、作品を創りながらアートのあり方を考えていく「北海道インプロGRESS」が立ち上がりました。その拠点づくりの一環として取り組むのが「三笠プロジェクト」です。

川俣さんのアートプロジェクトの手法「インプロGRESS」は、「美術館やギャラリーではない場所で、地域の人たちとともにアイデアを出し合いながらアート作品を組み立てていく、そのプロセスを共有することに主眼がある」というのが特徴。これまで各地で行ってきたプロジェクトでは、終了後に作品を解体して何も残さないケースがほとんどでした。プロジェクトのプロセスに関わらなければ取り組みの意図が分かりにくく、町おこしや地域振興のための活動と誤解されることもあるとします。

『結果として地域活性化に繋がることはあっても、それを目的として活動を行っているわけ

創り、考え続ける。 そのプロセスの共有が、 チカラになる。



けではない」というのが川俣さんの考えと、三笠プロジェクトで共に作品を創る菊地拓児さんはいます。一緒に過ごした時間、築いた関係性はその後繋がっていくけれども、アートはその成果のための手段ではない、と川俣さんは考えているそうです。

特に三笠では、かつての同級生たちのサポートのもと、地域の方々と素朴な関係性の中で時間を共有し、楽しみながら制作に没頭しているとのこと。運営費の多くは、趣旨に賛同する人なら誰でも参加できる会員組織『三笠ふれんず』の会費で賄われており、その運営も、川俣さんのかつての学友の方が支えています。

2012年からの三笠プロジェクトでは、毎年一週間ほど川俣さんが三笠を訪れ、学生や地域の人と一緒に、旧美園小学校の体育館でかつての炭鉱町の風景をモチーフとした作品を制作してきました。3年目となるこの夏、体育館全体を埋め尽くす巨大な作品が完成します。作品は「北海道インプロGRESSの拠点として、この地のための作品を」との考えで制作され、当面のところ保存・公開予定です。「それはなんのためだ、と聞かれたらアートのため、としか言いようがない。このように創りながら、新しいアートのあり方、アートのチカラとは何かを考え続ける、それが北海道インプロGRESSです」と菊地さん。今後は他の地域へのプロジェクトの広がりも期待できそうです。

北海道インプロGRESS

<http://hokkaidoinprogress.jimdo.com>





職人のまち・江差の語り部の店

④ 裂織・江差桐下駄(遊工房 紺屋)

昭和初期からの履物屋のおもかげが残る、紺谷捷子(こんや・しょうこ)さんの裂織工房。裂織作品販売のほか、事前申込で織りの体験もできます。また元履物屋の経験を生かし、紺谷さんが鼻緒をすげた、江差特産の桐下駄も販売。店内には昔の下駄作りの道具が展示されていて、「昔は下駄職人が多かった」という江差のまちを、織りとともに語ってくれます。

●江差町字中歌町74-1
☎0139-52-0489
◎10:00~17:00 水曜定休



松前藩時代の天井画の名作

③ 八方睨みの龍(法華寺)

約500年前の室町時代に江差の隣町の上ノ国で創立、その後松前に移転し、1721(享保6)年に江差の現在地に本堂が建立されたという、由緒ある寺院です。天井に描かれた「八方睨みの龍」は、松前藩の第十二世藩主・資広の弟の廣長と親交のあった、京都の絵師・池大雅の作と伝えられています。芸術を愛した廣長の求めて江差へ赴いた際、睨んだまま動かない大蛇から着想を得、一気に描き上げたのだとか。その他屏風、掛け軸や書など、江戸時代の美術品も見ることができます。



●江差町字本町71
☎0139-52-0355
◎開館 9:00~17:00
◎休館日 不定休
◎入館料 大人300円、小・中学生150円



街歩きアート

北前船が運んだ文化の香り満ちる、いにしえの港町 [江差]

「江差の五月は江戸にもない」——そう言い伝えられるほど華麗な文化が花開いたのが、道南の港町・江差です。江戸~明治期、ニシン漁と、日本海経由で物資を運び商いをする北前船の拠点として栄えました。伝統的な建築物や神社仏閣などを巡り、江差ならではの美と文化を探索してみましょう。

いにしえ街道

古い蔵や昔ながらの商家、社寺が立ち並び、まちなみ。江戸時代から続く江差の歴史をもっとも感じられるのが「いにしえ街道」です。

江差のまちは、松前藩が領地として統治していた時代からヒノキアスナロ(ヒバ)材の集積地としてあり、1700年ごろからは北前船の拠点の港町として繁栄しました。その記憶を残すべく、2004年、歴史的建造物が多く残る旧国道沿いを「いにしえ街道」として整備。毎年8月9日(11日に行われる「姥神(うばがみ)大神宮渡御祭」では、豪華な山車(ヤマ)が通りをねり歩き、約370年と言われる伝統が今に生きていることを実感できます。

ニシン漁全盛期の商家の暮らし

江差の商家建築

(①横山家、②旧中村家住宅)

江差には、ニシンを中心とした加工品や海産物等で財を成した商人たちがいました。現在の国道227号がある場所は当時海で、船から直接品物を出し入れできる「ハネダシ」という構造を持つ商家の家屋が、海にせり出さずらりと並んでいました。これは江差独特の建築様式で、細長い家屋の造りは関西風と言われます。「旧中村家住宅」は近江商人の大橋家からの歴史を持ち、「横山家」は現在も代々の方が住んでいます。北前船で運ばれてきた備前や萩といった陶磁器なども展示され、活気に満ちた暮らしぶりがうかがえます。



旧中村家住宅(国指定重要文化財)

●江差町字中歌町22 ☎0139-52-1617
◎開館 9:00~17:00
◎休館日 <11~12月>月曜・祝日の翌日、12/31~3月
◎入館料 大人300円、小・中・高生100円



横山家(道指定有形民俗文化財)

●江差町字姥神町45 ☎0139-52-0018
◎開館 9:00~17:00
◎休館日 <4月下旬~11月>無休
※その他の期間は要予約
◎入館料 大人300円、中学生150円、小学生100円

column

つらいときこそ、笑いを! 江差の繁次郎

江差一の有名人は誰ですか。まちの人にそう問うてみれば、きっと「繁次郎(しげじろう)」と答えることでしょう。と言っても、現存している人物ではありません。繁次郎はニシン漁で生き立っていた時代に、漁民の間で語り伝えられた笑い話の主人公です。漁に従事するのは出稼ぎが多く、過酷な労働と苦しい生活環境にあった中で、繁次郎の話に託して笑い



ばし憂さを晴らしていたようです。口が達者でしばしば親方をやり込める話の、クスリと笑えながらもチクリと辛辣なところが共感と呼んだのかもしれない。今の江差の人にとって、繁次郎は大切な存在です。国道227号沿いに繁次郎の像があり、繁次郎の名を冠した温泉などもあります。江差町のゆるキャラ「しげっち」も繁次郎がモデル。江差の繁次郎はデザインなどに使われながら、時代を超えて生き続けています。



●江差町字中歌町112
☎0139-54-2188
◎開館 9:00~17:00
◎休館日 <11~12月>
月曜・祝日の翌日、12/31~3月
◎入館料 大人300円、小・中・高生100円



明治の洋館を彩る美しい模様

⑤ アンティークな布クロス(旧檜山爾志郡役所)

1887(明治20)年に北海道庁の出先機関として設置された、瀟洒な洋風建築の郡役所が、道内に唯一現存する建物として1996~1997年に保存修復されました。その際、幾度も修復された天井や壁の奥に、美しい布クロスが貼られているのがわかりました。ペイズリーや花柄、また桃太郎がモチーフのかわいらしい柄は、当時の京都やイギリスで作られたもので、修復にあたってこれら布クロスも再現。かつての華麗な姿を取り戻しています。建物は現在「江差町郷土資料館」になっています。

●江差町字本町38
☎0139-52-0022
◎8:00~19:30
(日曜は19:00まで)
元日、第3火曜定休
http://www.gokatteya.co.jp/



北海道銘菓の原点

⑥ レトロなパッケージの羊羹(五勝手屋本舗)

筒に入った羊羹で知られる五勝手屋本舗。その歴史は古く、1500年代末に江差へ移り住んだ人が、材木の切り出しに来ていた南部藩の「五勝手組」が栽培した小豆で、お菓子を作ったのが始まりとされています。1870(明治3)年、北前船で運ばれてきた寒天と砂糖を使用して羊羹を製造、品評会で賞を受賞したときの賞状を掛け紙の柄にしています。昭和に入ると、指を汚さず食べる工夫として筒型の丸缶羊羹が考案されました。レトロなパッケージは、伝統の味の証です。

表紙作家の紹介



武田 浩志 美術家
Hiroshi Takeda

1978年北海道札幌市生まれ/札幌在住

2012_portrait150

【個展】

- 2013年 connect cojica 05(小樽市民ギャラリー/小樽)
- 2012年 Utopia MoMo-Iro7(salon cojica/札幌)
Utopia MoMo-Iro5
(MIKIKO SATO GALLERY/ハンブルク/ドイツ)
- 2011年 Utopia MoMo-Iro4(TO OV cafe/札幌)
Utopia MoMo-Iro3 (JR TOWER ART BOX/札幌)
- 2010年 こ鹿(salon cojica/札幌)
武田浩志作品展(TO OV cafe/札幌)
- 2008年 10th year(CAI02/札幌)
- 2006年 Utopia MoMo-Iro 2(CAI 現代芸術研究所/札幌)
- 2004年 Utopia MoMo-Iro
(MIKIKO SATO GALLERY/ハンブルク/ドイツ)
- 2003年 A(&m).s.h.+タケダsystem vol.002+野獣派LIVE!!
(Free Space PRAHA/札幌)
- 2000年 タケダヒロシアワー(spセンター/札幌)

【主なグループ展】

- 2014年 札幌国際芸術祭
(札幌大通地下ギャラリー500m美術館/札幌)
- 2012年 札幌美術展 パラレルワールド冒険譚
(札幌芸術の森美術館/札幌)
絵画の場合-最終章-(ポルトギャラリー/札幌)
- 2011年 シェル美術賞展2011
(代官山ヒルサイドフォーラム/東京)
THE BEGINNING -
Exhibition of Hybrid Generation
(札幌PARCO新館5F/札幌)
pisto13 齋藤周との二人展(room11/札幌)

◎北海道文化財団アートスペース企画展

- 武田浩志展
- 会期:平成26年8月8日(金)~10月10日(金) 9:00~17:00
- 休館日:土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。
- 会場:北海道文化財団アートスペース
(札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)
- 入場料:無料

- 2010年 M120 Moganshan re-used!
(莫干山路120号/上海/中国)
- 2009年 水脈の肖像09
-日本と韓国、二つの今日
(北海道立近代美術館/札幌)
雪国の華
-N40°以北の日本の作家達-
(Vanguard Gallery/上海/中国)
MAGICAL CAMP presents
"the IMAGIKAL" Vol.001(CAI02/札幌)
- 2008年 FIX・MIX・MAX!2(札幌宮の森美術館/札幌)
サッポロ・アート展(CAI02/札幌)
- 2006年 嵐の話 櫻見菜々子との二人展(やぎや/札幌)
FIX・MIX・MAX! 現代アートのフロントライン
(北海道立近代美術館/札幌)
- 2004年 国境を越えた美術の冒険
(北海道立近代美術館/札幌)
- 2003年 福・北・北美術往来(モダンアートバンクWALD/福岡)
LIBRARY PROJECT(せんだいメディアテーク/仙台)
SCHAU DER MEISTERSCHULER
(CAI CONTEMPORARY ART INTERNATIONAL/
ハンブルク/ドイツ)
ASIA PRINT ADVENTURE 2003
(北海道立近代美術館/札幌)
- 2002年 Peace life(札幌芸術の森工芸館/札幌)
PRA-Camp(デメテル関連企画/ホシビル/帯広)
A★MUSE★LAND 2003(北海道近代美術館/札幌)
- 2001年 ART MEETS 2001(Free Space PRAHA/札幌)
- 2000年 篠路アートプロジェクト(篠路倉庫/札幌)



2010_c_I cannot watch a cojica



2010_to_view



フォト・エッセイ ⑤
文/写真 文月 悠光 Yumi Fuzuki

見えますか

ああ十八歳だ。実家の自分の部屋に入ると、何よりそのことに圧倒される。壁のポスターも本棚も、上京前のまま時が止まっている。窓際の机の前に腰かければ、五年前、一〇年前の光景に引き戻される。消しゴムの跡、ちびた鉛筆の束。同じ椅子、同じ窓から外を眺め、同じように詩を綴った。私は高校生るとき、文字通りここで詩人になった。

高校卒業まで札幌の郊外に住んでいた。駅まで出歩けば、同級生の家を過ぎ、母校の中学校の前を通り、忽ち知人に鉢合わせする小さな町。制服のシャツの袖をまくり、自転車を立ち漕ぎしながら「早くここから出ないと」と強く思った。友達が、先生が、小テストが、球技大会が。うっとうしい学校生活の中、憧れをいつそう膨らませていった。美術室で絵を描き、古本屋に入り浸り、ひたすら東京の生活を夢見ていた。去年の夏、実家の隣のアパートが取り壊された。窓から見えた、馴染

みの青い外壁は消えた。ぼっかりとした空き地を眺め、かつてそこに住んでいた幼馴染の行方を思ってみた。故郷とは何だろう。札幌を基準に東京を見ていた目が、東京から持ち帰った視点で札幌を眺め直している。東京には二十二歳の私の日々があり、故郷にも絶えず時間が流れている。実家に戻る。駅まで歩く。美術室を訪ねる。自転車には乗らない。私はもう高校生ではない。差が開いていることを知りながら、確かめずにはいられない。そこに「在る」ということを。そのとき故郷の目も、今の私を見るだろう。



文月 悠光
(ふづき ゆみ)
詩人

1991年、北海道札幌市生まれ。東京都在住。2010年、高校3年の時に出した第1詩集『適切な世界の適切ならざる私』で中原中也賞、丸山豊記念現代詩賞を最年少受賞。2013年、第2詩集『屋根よりも深々と』刊行。雑誌に書評などを執筆するほか、NHK全国学校音楽コンクール課題曲の作詞や、テレビやラジオ番組での詩の朗読など広く活動中。

財団事業インフォメーション（平成26年8月～9月）

アートシアター鑑賞事業

●白石加代子「百物語」シリーズ第三十二夜

▷滝川公演
日時：平成26年8月6日（水）19:00開演（18:30開場）
会場：たきかわ文化センター（滝川市新町3丁目6番地44号）
問い合わせ：たきかわ文化センター ☎0125-23-1281

▷音更公演
日時：平成26年8月8日（金）19:00開演（18:30開場）
会場：音更町文化センター（音更町木野西通15丁目8番地）
問い合わせ：音更町文化センター ☎0155-31-5215

※各公演の入場料は直接お問い合わせください。
※未就学児の入場はご遠慮ください。

●札幌座「瀨死の王さま」

▷帯広公演
日時：平成26年9月12日（金）19:00開演（18:30開場）
会場：北のれんが・古柏堂（帯広市東2条南12丁目2番地1号）
問い合わせ：北のれんがを愛する人々
☎090-6268-2633（志賀）

▷美唄公演
日時：平成26年9月14日（日）15:00開演（14:30開場）
会場：美唄市民会館（美唄市西4条南1丁目4番地2号）
問い合わせ：NPO法人美唄市文化協会
☎0126-63-2185

▷江別公演
日時：平成26年9月16日（火）19:00開演（18:30開場）
会場：アートスペース外輪船（江別市2条1丁目）
問い合わせ：アートスペース「外輪船」事務局
☎011-391-2170

▷石狩公演
日時：平成26年9月18日（木）19:00開演（18:30開場）
会場：アートウォーム（石狩市花畔1条1丁目56番地）
問い合わせ：NPO法人アートウォーム
☎0133-64-4664

▷壮瞥公演
日時：平成26年9月21日（日）14:00開演（13:30開場）
会場：壮瞥町地域交流センター山美湖
（壮瞥町字滝之町287番地7）
問い合わせ：壮瞥町地域交流センター山美湖
☎0142-66-2131

※各公演の入場料は直接お問い合わせください。
※未就学児の入場はご遠慮ください。

●アステリズムコンサート 喜茂別公演

日時：平成26年9月20日（土）9:40開演（9:10開場）
会場：喜茂別中学校 格技場
（喜茂別町字喜茂別258番地1号）
入場料：無料
問い合わせ：喜茂別町教育委員会 ☎0136-33-2203

若手芸術家発表事業

●デュオトロイメライ 豊頃公演

日時：平成26年9月10日（水）
18:30開演（18:00開場）
会場：豊頃町える夢館
（豊頃町茂岩本町166番地）
入場料：500円
問い合わせ：豊頃町教育委員会
☎015-579-5801



文化の宅配便事業

●能登谷安紀子&中島杏子 江差公演

日時：平成26年9月18日（木）18:30開演（18:00開場）
会場：壱番蔵
（江差町字焼神町42-3）
入場料：無料
問い合わせ：
江差町教育委員会
☎0139-52-1047



北海道文化財団 20周年記念事業

●アートカフェvol.15

アン・サリー「森のコンサート」

日時：平成26年8月17日（日）
13:00開演（12:30開場）
会場：アルテピアッツァ美唄
「アートスペース」
（美唄市落合栄町）
入場料：2,000円 定員：250名（先着順／事前申込制）
問い合わせ：北海道文化財団 ☎011-272-0501



●弘前劇場リーディング公演&ワークショップ

①ドラマリーディング公演「港立裏町図書館」ほか2作品

日時：平成26年9月5日（金）19:00開演（18:30開場）
会場：函館市芸術ホール
入場料：前売 1,000円 当日 1,500円

②長谷川孝治「演劇入門」ワークショップ

日時：平成26年8月30日（土）10:00～16:00
会場：函館市芸術ホール 地下 リハーサル室
（函館市五稜郭町37-8）

参加料：無料

（リーディング公演の入場券購入・鑑賞が参加条件）

参加条件：どなたでも可（初心者、中学校・高校の先生
又はコミュニケーションに興味のある方）

問い合わせ：北海道文化財団 ☎011-272-0501

高橋はるみ知事と芸術家との懇談会が開催されました。

平成26年3月26日、知事館において、道内を中心に活躍されている芸術家4名と高橋知事との懇談会が行われました。

懇談会には、北海道文化審議会会長の白井栄三さん、フルート奏者で北海道教育大学教授の阿部博光さん、演出家でNPO法人コンカリーニョ理事長の斎藤ちずさん、陶芸家の下沢敏也さん、洋画家の西田陽二さんが参加され、白井さんの進行により日頃の活動内容やその中での創意工夫、芸術文化分野を担う人材の育成等について語り合いました。

